

平成21年 5月25日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18202003
 研究課題名（和文） 東日本に分布する宗教彫像の基礎的調査研究—古代から中世への変容を軸に
 研究課題名（英文） RESEARCH ON RELIGIOUS STATUES FOUND IN EASTERN JAPAN — FOCUS ON RELIGIOUS CHANGES FROM ANCIENT TO MIDDLE TIME
 研究代表者
 有賀 祥隆（ARIGA YOSHITAKA）
 東北大学・大学院文学研究科・名誉教授
 研究者番号：20133613

研究成果の概要：三か年の期間中に、東北（岩手・宮城）、関東・甲信越（群馬・千葉・東京・神奈川・山梨）に加え、範囲を関西（京都・奈良）と中国地方（広島）にも一部広げ、都合、寺院・神社24ヶ所、34件46軀1箇1片、公共機関6ヶ所、8件20軀1双1柄、個人1ヶ所、1件1軀の物件を調査し、詳細な写真と基礎データを収集した。この成果は刊行準備中である。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	14,600,000	4,380,000	18,980,000
2007年度	11,100,000	3,330,000	14,430,000
2008年度	11,900,000	3,570,000	15,470,000
年度			
年度			
総計	37,600,000	11,280,000	48,880,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学

キーワード：美術史

1. 研究開始当初の背景

本研究グループは、東北地方の仏像を対象として多年にわたって調査研究を続けてきた。各分担者は、それまでの研究を通して、調査方法と問題意識を共有しており、詳細かつ密度高い調査をおこなう技術を有していた。東北地方を対象にしてきたそれまでの研究を継続しつつ、その範囲を次第に広げる計画に基づき、本研究は、まず東日本にその範囲を定め、それまでに培ってきた方法によって調査をおこなうものとして企画された。

2. 研究の目的

仏像の分布地には一定の法則があり、そのことは自ずと仏像を伝存する土地の歴史性とながっている。本研究は、東北地方とそれに隣接する関東・中部地方を対象として、そこに伝存する古代と中世の仏像とともに調査し、古代的な信仰の中世の変容を、仏像に即して跡づけることを目的とした。

3. 研究の方法

研究目的の達成のため、まず、古代において拠点となった地域を重視して、調査をおこなった。そのような地域に伝存する、古代と中世の仏像を調査し、その土地の信仰と歴史を考える基礎資料を収集した。また、同時に仏像の尊種にも注目し、特に、近年関心を集めている、生身仏、靈驗仏信仰に関わる仏像を調査対象とした。

本研究は、それまでおこなってきた研究を継続するものとして、そこで試みてきた調査方法を継承した。すなわち、子細な観察による調書作成、X線透過装置・デジタル実体顕微鏡・ビデオスコープなどによる光学的調査、4×5版カラーフィルムによる高精細な撮影である。そして、それらを文字及び画像のデジタルデータとしてコンピュータ上に蓄積した。さらに、これら現地調査に基づくデータに検討を加えた上で、関連資料を踏まえながら、それぞれの像の歴史的な位置を記述した報告書を現在作成中である。

4. 研究成果

以上のような問題意識と方法によって、以下の各地域の各物件について詳細な調査をおこなった。

〈宮城〉陸奥国分寺十二神将像、十八夜観音堂・菩薩立像（2件）

〈岩手〉栗林阿弥陀堂・如来立像、如意輪寺・釈迦三尊像、中尊寺釈迦如来及び両脇侍像（山王堂）、不動明王及び二童子像（開山堂）、大日如来像（金色院）、制多迦童子像（阿弥陀堂）、光背残欠（円乗院）、三輪神社僧形像（伝天台大師像）、観自在王院跡石造如来像（9件）

〈群馬〉三光院十一面観音菩薩像、長谷寺十一面観音菩薩像、十一面観音菩薩像（前立ち）、善勝寺阿弥陀如来像、金剛寺地藏菩薩像、総持寺不動明王像、伝新田義貞像、光恩寺阿弥陀如来及び両脇侍像、長楽寺釈迦如来像（9件）

〈千葉〉宝泉寺・聖観音菩薩立像（1件）

〈東京〉大観音寺・仏頭（1件）

〈山梨〉仁勝寺聖徳太子像、広教寺阿弥陀三尊像、放光寺金剛力士像（3件）

〈神奈川〉満願寺観観音菩薩像・地藏菩薩像、清雲寺毘沙門天像、太岳院・薬師如来立像、円応寺・初江王像、弘明寺十一面観音菩薩像、東光寺薬師如来像（6件）

〈京都〉清凉寺毘沙門天像（弁天堂安置）、釈迦如来像、蟹満寺釈迦如来像（X線撮影）、

佛光寺聖徳太子像、了源上人像（5件）

〈奈良〉福智院・地藏菩薩坐像（1件）

〈広島〉安国寺阿弥陀如来及び両脇侍像（納入品）（1件）

〈その他〉文化庁四天王像、個人蔵阿弥陀如来像（2件）

これら物件の詳細な写真と基礎データ、関連資料を載せた研究成果報告書を現在作成中である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 20 件）

1. 長岡龍作、古代日本の「生身」観と造像、美術史学、29号、35～60頁、2009年、査読無

2. 泉武夫、北野天満宮蔵「舞楽図」衝立について-古代末期～中世初期の楽舞の状況から-、美術史学、29号、1～33頁、2009年、査読無

3. 長岡龍作、救済と表象―「中尊寺供養願文」寺院に投影された意味について、季刊東北学、16号、66～83頁、2008年、査読無

4. 津田徹英、滋賀・錦織寺不動明王像の周辺-不動明王彫像の額上髪にあらわれた花飾りへのまなざし-、佛教藝術、299号、53～88頁、2008年、査読有

5. 武笠 朗、藤原道長の仏教信仰・造像・唐物観、『源氏物語と美術の世界』〔講座源氏物語研究〕、10、182～204頁、2008年、査読無

6. 山本勉、南北朝時代の彫刻--唐様の仏像と伝統の残照、日本の美術、493号、1～806頁、2007年、査読無

7. 浅井和春、東大寺盧舎那大仏造立覚書(特集大仏像)、佛教藝術、295号、74～96頁、2007年、査読有

8. 武笠 朗、興福寺阿修羅像と金光明最勝王経、イメージとテキスト-美術史を学ぶための13章-、21～49頁、2007年、査読無

9. 泉武夫、仏教美術研究の近年の動向と隣接諸学との接点、日本宗教文化史、21号、48～56頁、2007年、査読有

10. 瀬谷貴之、《調査報告》太寧寺所蔵 薬師如来像及び両脇侍像一補遺一、金沢文庫研究、319号、44～47頁、2007年、査読無

11. 武笠 朗、蓮華王院長寛造像の研究（1）1-創建の経緯と造立仏師の検討-、美学美術史学、21、27～48頁、2007年、査読有

12. 津田徹英、中世真宗の美術、日本の美術、

488号、1～86頁、2007年、査読無

13. 浅井和春、宝光院蔵 鉄造薬師如来坐像、國華、1339号、36～38頁、2006年、査読有

14. 長岡龍作、樂法寺蔵 観音菩薩立像、妙法寺蔵 伝阿弥陀如来坐像・伝観音菩薩立像・伝虚空蔵菩薩立像、國華、1326号、38-43頁、2006年、査読有

15. 浅井和春、神向寺蔵 如来坐像及菩薩立像、國華、1326号、44-46頁、2006年、査読有

16. 武笠 朗、西光寺蔵 薬師如来坐像、國華、1326号、53-55頁、2006年、査読有

17. 津田徹英、五大力堂蔵 五大力菩薩像、國華、1326号、55-58頁、2006年、査読有

18. 津田徹英、善重寺蔵 聖徳太子立像、國華、1326号、65-67頁、2006年、査読有

19. 山本 勉、観世音寺(佐白観音)蔵 千手観音菩薩坐像、國華、1326号、58-60頁、2006年、査読有

20. 武笠 朗、大阪・金剛寺金堂大日如来像考、美学美術史学、20、1～49頁、2006年、査読有

〔学会発表〕(計 5 件)

1. 長岡龍作、仏教における「靈驗」—仏が感応する場と表象、シンポジウム「礼拝像と奇跡 東西比較の試み」、2008年5月31日、東京大学

2. 長岡龍作、彼岸・因果・表象—仏教美術への開かれたアプローチとして、日本仏教総合研究学会、2007年12月9日、山形大学

3. 長岡龍作、美術から見た平泉の信仰—「表象」の仏教的意味を中心に、シンポジウム「都市平泉と列島の中世」、2008年7月26日、平泉ホテル武蔵坊

4. 長岡龍作、彼岸と表象—仏教美術の機能についての基礎的考察、美術史学会全国大会招待発表、2007年5月25日、九州大学

5. 津田徹英、三国をめぐる中世の仏教世界観とその造形への視座、美術史学会全国大会招待発表、名古屋大学、2006年5月27日

〔図書〕(計 5 件)

1. 山本 勉、『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記篇7、中央公論美術出版、2009年、184頁

2. 山本 勉、『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記篇6、中央公論美術出版、2008年、238頁

3. 山本 勉、『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記篇5、中央公論美術出版、200

7年、265頁

4. 泉武夫、『国宝 六道絵』、中央公論美術出版、2007年、376頁

5. 山本 勉、『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記篇4、中央公論美術出版、2006年、240頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 0 件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

有賀 祥隆 (ARIGA YOSHITAKA)

東北大学・大学院文学研究科・名誉教授

研究者番号：20133613

(2) 研究分担者

浅井 和春 (ASAI KAZUHARU)

青山大学・文学部・教授

研究者番号：60132700

山本 勉 (YAMAMOTO TSUTOMU)

清泉女子大学・文学部・教授

研究者番号：00150037

武笠 朗 (MUKASA AKIRA)

実践女大学・文学部・教授

研究者番号：30219844

長岡 龍作 (NAGAOKA RYUSAKU)

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：70189108

津田 徹英 (TSUDA TETSUEI)

文化財研究所東京文化財研究所・企画情報部・広領域研究室長

研究者番号：00321555

泉 武夫 (IZUMI TAKEO)

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40168274

瀬谷 貴之 (SEYA TAKAYUKI)

神奈川県立金沢文庫・学芸課・研究員

研究者番号：50443411

井上 大樹 (INOUE TAIKI)
大分県立歴史博物館・学芸調査課・学芸員
研究者番号： 80422070
(平成18年～19年度)

(3) 連携研究者
なし